

日本アンダーライティング協会

八東滋代表理事に聞く

23年2月から資格試験CBT化

日本アンダーライティング協会では2023年2月に行われる資格試験からCBT試験を導入する。コロナ禍以降、教育講習会をオンライン化するなど、デジタル化を推進すると同時に、21年度に事例研究部会、インシチュアテック部会、テキスト部会の3部会を立ち上げ、会員の主体的な活動を通じた人材の育成にも取り組んできた八東滋代表理事に、5月17日に初のハイブリッド形式での開催となった年次大会の振り返りと、今後の展開について聞いた。

——年次大会を終えて組織が変わってきたことを感じられたことは本当だろうか。

八東 私は長く協会運営に携わってきたが、当初のハイブリッド開催とインシチュアテックは今やアンダーライティングと切り離せない存在。部会

教育講習会を全てオンラインで実施している。

「協会は双方向性ある自己研鑽の場へ」

——年次大会を終えて組織が変わってきたことを感じられたことは本当だろうか。

八東 私は長く協会運営に携わってきたが、当初のハイブリッド開催とインシチュアテックは今やアンダーライティングと切り離せない存在。部会教育講習会を全てオンラインで実施している。

——21年度の活動の振り返りを。

八東 まず、コロナ禍の影響で2020年度は

実施を見送った資格試験を、時期を8月に変更して実施した。1年延期することも考えたが、翌年の2月にまた新種のウイルスがまん延していないとも限らない。8月であ

る。テキスト部会に関しては、ALU(米国のアンダーライターへの教育を提供する組織)のアップデートを当協会のテキストに反映する作業を進めており、次回試験で使用する予定だ。どの部会も有志のメンバーによって成り立っている。皆日々の業務を抱えながらの参加だが、違う会社の人との交流に価値を感じてくれているようだ。メンバーが生き生きと活動している姿を見て、自分も参加したいと思つた。今年度の2月にも成果発表を行い、前回とは違う顔ぶれのメンバーが発表してくれた。成果発表は非

常には好評で、「業務の中で悩んでいたことが紹介されて、悩みが解消できた」という声も寄せられている。インシチュアテック部会も前述のとおり主体的に動いてくれている。アーカイブ配信もある。アーカイブ配信もある。

——22年度の活動について。

八東 まずはCBT化を成功させることが重要だ。私自身は代表理事としての2年の任期を終えるので、あとは後任者に任せたいと考えている。6月には新体制ができる予定だ。デジタル化と人の育成は両輪。人の育成に手を抜いたら協会の歩みは止まってしまう。当然、少くも、少し時間がたてば

——最後に会員へのメッセージを。

八東 外部の人には、アンダーライティング業務はもっとシステム化すべきと言われることがあるが、医療は日進月歩で進んでいる。せつかくルールエンジンを作った



八東氏

ればある程度の人はワクチンの2回目接種が終わっている」と予測し、8月の実施に踏み切った。やはりコロナ禍の影響もあり、例年に比べて試験を欠席するケースが少し多かつたが、受験者数は1463人と大きく落ち込むことはなかった。

——日常的な活動について。

八東 事例研究部会、インシチュアテック部会、テキスト部会の三つの部会が精力的に活動して、前回の年次大会で発表された事例研究部会は今年度の2月にも成果発表を行い、前回とは違う顔ぶれのメンバーが発表してくれた。成果発表は非

たとも思う。

協会が人材育成の一役を担う存在として今後も発展していくことを願っている。

——最後に会員へのメッセージを。

八東 外部の人には、アンダーライティング業務はもっとシステム化すべきと言われることがあるが、医療は日進月歩で進んでいる。せつかくルールエンジンを作った